

1 法人の概要

1-1 建学の精神

「実学に勤め徳を養う」

これは学園の創始者九里總一郎が1946(昭和21)年に興した私塾の校訓として掲げたもので、実学教育をもって人間形成を図るという建学の精神を示すものです。

1-2 沿革

1946年5月	浦和市岸町に九里總一郎が私塾を創設、珠算・簿記・英語を指導
1949年5月	埼玉県知事の認可を得て浦和実業専門学院を設立
1959年12月	学校法人浦和実業学園を組織
1963年4月	埼玉県知事の認可を得て浦和市文蔵に浦和実業学園商業高等学校を設置
1968年8月	静岡県南伊豆町下賀茂に厚生施設「みなみの荘」を開設
1974年4月	浦和実業学園商業高等学校に普通科を増設
1975年4月	校名を浦和実業学園高等学校と改称
1977年6月	法人名を学校法人九里学園と改称
1987年4月	文部大臣の認可を得て浦和市大崎に浦和短期大学（経営科、英語科）を開学
1997年4月	浦和短期大学に福祉科（社会福祉専攻、介護福祉専攻）を増設
2003年4月	文部科学大臣の認可を得てさいたま市緑区大崎に浦和大学（総合福祉学部総合福祉学科）を開学 浦和短期大学を浦和大学短期大学部と改称、経営科を経営情報科、英語科を英語コミュニケーション科に名称変更
2004年4月	浦和大学短期大学部福祉科社会福祉専攻を廃止し、福祉科を介護福祉科に名称変更
2005年4月	埼玉県知事の認可を得てさいたま市南区文蔵に浦和実業学園中学校を開校
2007年4月	浦和大学にこども学部こども学科を増設 浦和大学短期大学部経営情報科、英語コミュニケーション科の学生募集停止
2009年3月	戸田市大字曲本に浦和実業学園彩湖総合グラウンドを新設
2011年3月	さいたま市南区松本に彩湖クラブハウスを新設
2017年4月	浦和大学にこども学部学校教育学科を増設
2020年4月	浦和大学総合福祉学部を社会学部と改称し、社会学部現代社会学科を増設

1-3役員(2020年3月31日現在)

■理事

理事長

久田 有

常務理事

芹川 眞澄

理事

田村 健次 島田 正寛 富澤 雄一 文屋 善弘 大久保秀子 齋藤 清幸

■評議員

久田 有 芹川 眞澄 田村 健次 島田 正寛 富澤 雄一 文屋 善弘

大久保秀子 齋藤 清幸 菅田 昇 中村 泰治 岡田 慎一 藤倉 慎一

中島 節子 北村 修一 新井 勇 米山 敦夫 永井 隆

■監事

舛川 博昭 大内 誠

■学長・校長

浦和大学・浦和大学短期大学部 学長 久田 有

浦和実業学園中学校・高等学校 校長 齋藤 清幸

1-4 設置する学校・学部・学科・所在地等

(1) 学校法人九里学園(学園本部)

336-0025 埼玉県さいたま市南区文蔵3-9-1

(2) 浦和大学(社会学部, こども学部), 浦和大学短期大学部(介護福祉科)

336-0974 埼玉県さいたま市緑区大崎3551

(3) 浦和実業学園高等学校(全日制 普通科, 商業科), 浦和実業学園中学校

336-0025 埼玉県さいたま市南区文蔵3-9-1

1-5 学生生徒数の状況（2019年5月1日現在）

（単位：人）

①浦和大学

学部	入学定員	収容定員	1年次	2年次	3年次	4年次	学生数	収容定員 充足率
総合福祉学部	70	310	62	38	34	26	160	51.6%
こども学部 こども学科	100	400	85	66	75	76	302	75.5%
こども学部 学校教育学科	30	90	24	19	18		61	61.7% 3年次まで

②浦和大学短期大学部

学部	入学定員	収容定員	1年次	2年次	学生数	収容定員 充足率
介護福祉科	60	120	23	22	45	37.5%

③浦和実業学園高等学校

課程	入学定員	収容定員	1年次	2年次	3年次	学生数	収容定員 充足率
普通科	520	1,560	607	506	515	1,628	104.4%
商業科	240	720	321	316	219	856	118.9%

④浦和実業学園中学校

入学定員	収容定員	1年次	2年次	3年次	学生数	収容定員 充足率
120	360	80	70	51	201	55.8%

1-6 本務教職員の概要（2019年5月1日現在）

（単位：人）

浦和大学	教員	39
	職員	27
浦和大学短期大学部	教員	9
	職員	5
浦和実業学園高等学校	教員	123
	職員	21
浦和実業学園中学校	教員	18
	職員	4
総計		246

2 事業の概要

各学校が 2019 年度に実施した主な事業概要は、以下の通りです。

2-1 浦和大学・浦和大学短期大学部

1. 第 11 回「さくらまつり」が実施されました

2019 年 4 月 5 日、こども学部の主催イベント「さくらまつり」が「ぼっけの庭」で開催されました。「さくらまつり」は、新入生や新しいスタッフを迎えたこども学部の学生や教職員が、さくらの花の下に集い、地域の方々と一緒に交流を楽しむ毎年恒例のイベントです。訪れてくれたこどもたちのためのゲームコーナ、来賓・ゲストの方々に人気のある茶道部の野点、参加者が一緒になって楽しむゲームやレクリエーションなどの催しも行われました。

2. 学校教育学科 3 期生の「教職入門」合宿が実施されました

2019 年 4 月 20 日、21 日の 2 日間、学校教育学科新入生の「教職入門」合宿が、埼玉県立長瀬げんきプラザで行われました。この合宿は、1 年次の必修授業である「教職入門」と「スタディナビゲーション A」の一環で、教職を志す学生としての意識の向上、共に学ぶ友人や学科教員との人間関係の醸成、クラスの団結力向上などを目的として、毎年 4 月末に新入生全員が参加して行われています。将来小学校教諭になった際の宿泊学習引率を想定し、合宿のしおり作成、講義の依頼、バスの中でのレクリエーション、野外炊事の計画など全てを学生自身が考え、協働して作り上げます。合宿の計画を自分たち自身で考え、楽しく充実したプログラムに作り上げる経験は、大学生として、また将来の教員に向けての大切な学びの第一歩となっています。合宿期間中は晴天に恵まれ、初日の埼玉県立自然の博物館の見学、教員による 4 コマの講義、交流会、2 日目の自然観察、野外炊事と全てのプログラムを無事に終了することができました。

3. さいたま市教育委員会学校教育部教職員人事課長：澤田純一氏による特別講義が行われました

2019 年 5 月 20 日（月）に、学校教育学科全学科生に向けて、さいたま市教育委員会教職員人事課課長澤田純一氏による特別講義が行われました。学校教育学科では、小学校教師を目指す学生に通常の正課授業に加え様々なプログラムを設定しています。今回はそのプログラムの一つである「教職サポートセミナー」の特別講義でした。講義では、なぜ教員を目指したか、小学校教師のやりがいと責任、さいたま市で活躍する若手教師の実際の様子など、熱心に語っていただきました。澤田先生のお話に、学生も熱心にノートをとりうなずきながら聞き入っていました。講義を受け、「教師になることについて不安の方が大きく悩んでいましたが、情熱を強く持つとそんな不安も乗り越えられるのではないかと感じました。教師を目指し一生懸命努力します」など、学生の意識も大きく変わってきたようです。学校教育学科の学生が自身の将来を考えるための大変有益な特別講義となりました。

4. 11 代目金原亭馬生師匠がゲスト講師として高野実貴雄教授の授業に

2019 年 5 月 27 日（月）高野実貴雄教授の授業：「日本文化」の第 6 回の講義に落語家の 11 代目金原亭馬生師匠を迎えて落語の面白さを実感する授業が実施されました。「日本文化」の授業では全 15 回の授業のうち 2 回、落語家の方をゲストにお招きして、直に落語を体験する場を設けており、この日の講義では、11 代目金原亭馬生師匠による、新作落語、古典落語（「狸」別名「狸の札」）がそれぞれ 1 席ずつ演じられました。

5. クラーク記念国際高等学校 さいたまキャンパス生徒さん～上級学校授業体験記～

上級学校の体験授業として、2 年生と 3 年生を対象に約 30 名の生徒が、6 月 10 日から 4 回に

わたり浦和大学での授業を体験しました。2019年6月3日(月)に行われた第1回は、こども学部こども学科の山梨みほ准教授が「こどもの育ちを支援する。～親子のひろば(ぼっけ)の見学と手作りおもちゃの作成～」をテーマに授業をおこない、授業の最後では紙コップで作るギフトボックスの製作を行いました。2019年6月10日(月)に行われた第2回では、「何歳から小学校1年生になれるのか？」をテーマにこども学部学校教育学科の山口和孝教授による授業が行われました。2019年6月17日(月)は総合福祉学部・総合福祉学科の片山昭義教授による「コミュニケーション・ワークの体験～仲間づくりの基本スキル～」の授業が九里メモリアルホール(体育館)で行われました。前期の最終回となる6月24日(月)は介護福祉科の福島猛行が授業を担当し、「いろいろな車椅子に試乗してみよう」をテーマに、車椅子の試乗を行い、試乗者それぞれが「こんな点を改善するともっといい車椅子になる」について発表をしました。

6. ～「ぼっけ」講座Ⅲ～ あそびうた♪コンサートが開催されました。

2019年7月6日(土)、湯浅とんぼ氏と杉川としひろ氏による「あそびうたコンサート」が浦和大学多目的ホールで行われ、地域の親子の方々や浦和大学こども学部の学生や卒業生が参加しました。

7. こども学部の金井玲子教授が東京オペラシティリサイタルホールでコンサートを行いました

こども学部の金井玲子教授が、2019年6月14日に東京オペラシティリサイタルホールにてコンサートを行いました。金井教授は、ピアノの独奏と、他の楽器とのアンサンブルの曲を組み合わせたプログラムでリサイタルシリーズを展開しており、今回のテーマは「ゴッホの世界Ⅱ」。ヴァイオリン、チェロ、フルート、オーボエ、クラリネット、ソプラノの、それぞれ日本を代表する共演者と色々な組み合わせで合計11曲を演奏し、お客様からはゴッホの美しい世界を堪能したとの声が聞かれました。

8. 浦和レッズハートフルクラブ meets 浦和大学

2019年7月22日(月)学校教育学科生を対象に、浦和レッズハートフルクラブキャプテン落合弘氏による特別講義が行われました。今回の特別講義では、小学校教諭を目指す学生を対象に『浦和レッズハートフルクラブ「こころ」を育む取り組み～小学校教諭を目指す皆さんへ～』というテーマで講演をしてくださいました。

9. 小学生のための公開ゼミナールイベント「1日大学生」が行われました

2019年8月20日(火)に6回目となる「1日大学生」が行われました。「1日大学生」は小学生を対象に2014年から行なわれている夏休みの公開講座です。

今年度は低学年向けの【かず・かたち編】「たのしく算数1・2年」、中学年向けの【しぜん編】「ちりめんじゃこの研究」、高学年向けの【数量・図形編】『算数を用いて「美しさ」を知ろう』の3つの講座が行われ、72名の小学生が参加しました。

当日は講座ごとに受付を済ませた後、大きな階段教室で「入学式」が行われました。「入学式」が終わると、学生スタッフと一緒に各講座が行われる教室に移動し、講義がスタートです。どの講座も大学の先生やスタッフの大学生と一緒に様々な作品を創りあげました。大学の講義と同じ90分間の講義が終わると「修了式」が行われ、出口学部長から修了証が手渡されました。

10. 総合福祉学科 片山昭義教授が川口市の小学校で運動遊び教室の講師を担当

健康・スポーツの指導経験が豊富な総合福祉学科 片山教授が、埼玉県教育委員会からの依頼を受け、運動遊び教室の講師を担当しました。会場は川口市の小学校で、2019年9月10日(火)に先生方を対象にした講習会を、2019年9月13日(金)に1～3年生の児童を対象にした体験プログラムを実施しました。教室は、事前に先生方に体験と解説を受けてもらった内容を、当日、児童にやって

もらいながら指導するという形式で行われました。1 学年 45 分の授業の中で、複雑な動きに挑戦するもの、友達と競争したり協力したりするもの、そしてクラスで団結して取り組むものなど、多様なプログラムが織り込まれており、児童たちには新鮮で、大好評でした。

11. 田中康雄准教授がさいたま市大東公民館からの依頼を受け、地域の高齢者向けに講演を実施

2019 年 9 月 20 日（金）さいたま市大東公民館にて、本学総合福祉学科の田中康雄准教授が「高齢期のストレスマネジメントと地域課題への対処」と題して、講演を行いました。講演では、調査結果や事例を交えながら、地域の課題をどのように発見し、どのように対処・解決していくのか、その方法についての説明がありました。また、高齢期のストレスマネジメントについては、高齢期を人生の完成期であり人生最高の精神の成熟期と捉え、日々の生活を主体的に生き、ストレスと向き合い、上手く付き合いながら、幸福な老いであるサクセスフルエイジングを目指していくことの重要性を伝えました。

12. 第 3 回「おもちゃコンテスト」実施

第 3 回目となる今回のおもちゃコンテストには、応募期間中（2019 年 7 月 1 日（月）～9 月 17 日（火））に、沖縄県から北海道まで前年の 733 作品を上回る 806 作品が寄せられ、表彰式を 2019 年 10 月 13 日（日）に浦和大学キャンパス内で開催される学園祭「しらさぎ祭」の一環として、屋外ステージ行いました。最終選考では、こども学部・学部長の出口雅生教授、「美と表現」や「アートコミュニケーション」などの授業を担当する船木美佳教授やこども学部所属教員の他に、株式会社エポック社の方にも選考委員として参加しました。その結果、一般の部は、最優秀 1 作品、優秀 3 作品、入賞 4 作品、佳作 23 作品、学校賞 1 校が、また今回から新設された木材加工の部は最優秀 1 作品、優秀 1 作品、入賞 2 作品が決定されました。

13. モンゴル授業研究協会（モンゴルの先生方）とこども学部の交流

モンゴル授業研究協会（モンゴルの現職の先生方）が浦和大学こども学部と交流し、学内視察、こども学科巨理史子教授の「算数・数学の教材研究」の講義を受けました。2019 年 11 月 7 日（木）モンゴル授業研究協会の 2019 年度日本研修の 1 日目（午後の部）が浦和大学で行われました。モンゴル授業研究協会とは、2013 年にモンゴル国の先生方（小学校から大学の先生方）によって設立された授業研究会です。こども学部・こども学科所属の巨理史子教授は、2011 年 9 月に JICA モンゴル国子ども達の発達を支援する指導法改善プロジェクトにおける講師・講演（於・東京学芸大学）を契機に、2012 年 4 月下旬から 5 月上旬のモンゴル国でのモニタリング及び講演以降、モンゴルの先生方と関わりを深めています。モンゴルの先生方と一緒に今回は、ダルハンヌール県・ウランバートル市・ウムノゴビ県の 3 つの地域から現職の高校教員（数学・物理）、小学校教員・校長・学習マネージャー等の先生方が 15 名来日しました。

14. 介護福祉科：「ハンセン病から日本の歴史を辿る 『施設見学』

介護福祉科では、介護技術を修得するため 1 年次より生活支援技術の授業を受けています。「生活支援技術 VI」では、様々な障害の形態に応じた介護を勉強しています。今回の授業では、「ハンセン病」について理解を深めるため、東京都東村山市にある「多磨全生園」と「国立ハンセン病資料館」へ行ってきました。最初に、多磨全生園の医師より施設が設立された歴史的背景やハンセン病について講義をしてもらいました。学生は「ハンセン病」について事前学習をしてから施設へ伺いましたが、実際にハンセン病の治療や生活支援に取り組まれている医師からの話はとても興味深く、学生もとても熱心に講義を聞き入っていました。

15. 第 5 回介護の学校 in 埼玉「きらめく介護人宣言！～令和の時代もときめこう～」が開催される

2019年11月2日(土)に「第5回介護の学校 in 埼玉」が開催されました。「介護の学校 in 埼玉」は、一般社団法人埼玉県介護福祉士会と埼玉県介護福祉士養成校連絡協議会の合同企画として、介護福祉に対する社会の理解を広げるとともに、介護福祉のレベルを高めるために開始されたものです。今回は、本学の岡田先生が埼玉県養成校組織の代表者として実行委員会に加わり、副校長として、また、介護福祉士の理事でもある本学の井内職員は、予算執行を管理して、開催を支えました。今年の大会テーマは「きらめく介護人宣言！～令和の時代もときめこう～」ということで、人生100年時代、地域で豊かに暮らしていることが注目されている中で、これまで以上に介護福祉が担う役割はひろがり、活躍が期待されていることから、埼玉県内の介護現場で働く人々、また福祉業界に関わりのある人たちが出会い、つながり、仲間の輪を広げ、介護業界を盛り上げていくきっかけづくりを目的として、高齢者の居場所づくりについて考える講義や、介護の魅力についてディスカッションをしたり、お互いを認め合えるチームづくりについて考えるなど、6分野11講義が開催されました。介護福祉科の学生は、自分達が興味のある講義にそれぞれ参加してきました。

16. 埼玉県主催「県民の日コンサート」で、こども学部長出口雅生教授の作品が演奏されました。

2019年11月14日、埼玉会館大ホールで行われた埼玉県主催「県民の日コンサート～秋の夜長にピアノとハープの名演を～」は、日本を代表する音楽家である北川暁子氏(ピアノ)と井上久美子氏(ハープ)、平成30年度下總皖一音楽賞の2名の受賞者による演奏会です。第2部の井上久美子氏の演奏で、こども学部出口雅生教授が作曲・編曲を手がけた3台のハープ編成による2曲の作品、「日本のメロディ」「The Sound of Music」が演奏されました。アンコールでは出口教授の同じ編成による編曲作品「踊り明かそう～My Fair Lady より～」が演奏され、「県民の日コンサート」は盛況のうちに幕が閉じられました。

17. 埼玉県立戸田翔陽高等学校と浦和大学が教育連携協定を結びました。

2019年12月11日、本学において戸田翔陽高等学校 佐藤成美校長と本学 久田 有学長が協定書に署名し、両校は教育連携に関する協定を締結しました。

18. 浦和大学×浦和実業学園高校 ～高大連携プログラム実施～

2019年12月20日(金)、本学併設校、浦和実業学園高校との「高大連携プログラム」(大学の授業体験)を実施しました。同校商業科2年生の生徒(約31名)を対象に、入試説明、授業体験、キャンパス見学等を行いました。保育・幼児教育、学校教育、社会福祉、現代社会、介護福祉など、各分野の授業を受講した生徒の皆さんは、長時間にも関わらず、熱心に取組んでいました。

19. 「日本文化」の講義に柳家緑太氏(総合福祉学部1期生)がゲスト講師に

2020年1月8日(水)に高野実貴雄教授が担当する「日本文化」の講義に、総合福祉学部1期生、端正なマスクと口跡の良さから人気を誇る、柳家緑太氏がゲスト講師として来学しました。「根問いもの」の滑稽話「やかん」の一席を口演したあと、緑太氏と高野教授のトークセッションに移り、見習い・前座修業時代について振り返り、身振り・手振りを交えながら、落語家という職業についてのお話がありました。

20. 2020年2月1日(土)開催「アーティスト ピアノ アンサンブル」こども学部・金井教授が出演

こども学部の金井玲子教授のコンサート予告記事が、クラシック音楽情報誌「ぶらあぼ」に掲載されました。今回のコンサートは、「2台8手連弾」という2台のピアノを4人で弾くというアンサンブル形式の演奏となります。2台のピアノが向かい合う形で配置され、手前のピアノは蓋が外される珍しい演奏形態のため、ダイナミックで豊かな音を奏でました

21. 総合福祉学科の長沼明客員教授が横浜市研修センターで研修講師を務めました。

総合福祉学部の長沼明客員教授が、2020年2月14日(金)、横浜市研修センターにおいて、横浜市に18区ある「国民年金系の職員」を対象に、研修講師を務めました。研修のテーマは、『財政検証を踏まえた今後の年金制度の改正などについて』で、令和元年度に行われた厚生年金・国民年金の財政検証の結果やマクロ経済スライド・所得代替率の用語などについて解説し、今後予定されている制度改正についても説明しました。共済組合の職員も参加し、2時間半の研修をしました

22. 総合福祉学科の在学生在が埼玉県「公務災害防止に関する研修会」でデモンストレーション

2020年2月4日、埼玉県(地方公務員災害補償基金埼玉県支部)の「公務災害防止に関する研修会」(非常時対応に当たった職員のメンタルヘルスケアー自分もチームも守る理論編・現場で活かす実践編)において、総合福祉学部の学生たちがデモンストレーションを行いました。この研修会は、総合福祉学部の鈴木更良先生が埼玉県からの依頼で講演を行ったもので、学生たちは「臨床心理学実習」の授業の中で、非常時に役立つ『ポケットガイド』を作成した経験をいかして参加しました。

23. 総合福祉学科の片山教授が埼玉県の青少年相談員にレクリエーション技術を指導

2020年2月21日 総合福祉学部の片山教授(レクリエーション論)が、埼玉県が主催する「青少年相談員全体研修会」で“子供たちの一体感を高めるアイスブレイク手法”の講演を行いました。当日は埼玉県全域から、青少年相談員として活躍するボランティアの若者25人が集まりました。講演では、1.レクリエーション・プログラムの実技体験、2.これを通して子供たちがコミュニケーションを拓げていく仕組み、3.その中で集団への安心感や帰属意識を高めていくプロセス、4.そしてこれらを効果的に支援するためにリーダーが身に付けるべき具体的な手法、などが紹介されました。

24. 就職状況

本年度も就職率はこども学部100%、総合福祉学部100%、短期大学部100%を達成しました。なお、卒業者に占める就職希望者の割合は、大学(こども学部・総合福祉学部)が95.5%、短期大学部が94.4%でした。

25. 大規模工事

4号館のエアコン工事を実施しました。

2-2 浦和実業学園中学校・高等学校

1. ハワイ州ヒロ市での短期留学実施

今年度もハワイ州ヒロ市にある学園の施設ユナイテッドハワイカレッジにおいて短期留学が実施されました。このプログラムは、一貫部の4年生が3週間、一貫部以外の高校2年生全員が2週間当該施設に滞在し、英会話授業や現地の人たちとの交流を通して、コミュニケーション能力や異文化理解など多様な考え方を能動的に学ぶものです。また、このプログラムではドミトリーで朝夕自炊をしながら友人達と共同生活を送ります。今年度は合計748人が参加しました。

2. 最優秀賞に輝く～平成31年度痴漢犯罪防止ポスター選考結果～

2019年5月24日に平成31年度痴漢犯罪防止キャンペーン出発式がJR大宮駅西口イベント広場で開催されました。商業科2年生蒼田夏帆さんの作品が「平成31年度痴漢犯罪防止ポスター」原画の最優秀賞に選ばれ、蒼田さんは一日鉄道警察隊長を務めました。

3. 実りある進路指導へ～高大連携情報交換会実施～

2019年7月9日に大正大学の方々と本校の普商1年生の教員が、高大連携に対する知識や意識を高めることを目的とした、情報交換会を行いました。最初に、大正大学の入試状況を中心として、現在の大学入試がどのような変化を遂げているか、来年度なにが起こるかを説明していただきました。その後、高校と大学の実情を話し合うことを目的として、各テーブルで話し合いの場を設けました。

4. リーダーシップ研修プログラム実施～普通科1年進学コース 進学行事～

2019年7月17日に普通科進学コース1年生がリーダーシップ研修プログラムを実施しました。4月に伊豆・下田で行われたオリエンテーションキャンプを終えて、「下田に浦和実業の観光客を増やすためには」をテーマにグループごとに話し合い、最後は参加者全員の前でプレゼンテーション大会をしました。早稲田大学の学生の方々にも協力していただき、当初は大勢の前で自分の意見を述べることに戸惑っていた生徒もいましたが、最後は堂々とした姿で発表をすることができました。

5. 夏、進路を考える～高2対象進路相談会実施～

2019年7月25日にさいたまスーパーアリーナ1階展示ホールにて、一貫5年生、普通科・商業科2年生対象の進路相談会が行われました。50を超える大学、短期大学、専門学校にご出席いただき、生徒は熱心に各学校の特色や学部の内容に熱心に耳を傾けていました。また、多くの大学で2021年度の入試に向けてお話をしていただきました。「変更点や外部検定試験等の話を受け、身が引き締まる思いでした。」「夏休み中にどの学校のオープンキャンパスに行くか悩んでいましたが、直接大学の先生からお話が聞けてオープンキャンパスの行先を決めることができました。」と参加した生徒からは前向きな声が届きました。

6. 模擬国連（第3回AJEMUN）に出場～社会科同好会活動報告～

2019年8月7日（水）、8日（木）に社会科同好会の生徒が国際オリンピック記念青少年総合センターで行われた第3回全国高校教育模擬国連大会にチェコ大使（中高一貫コース4年 伊藤英希くん、榎本咲喜さん、大瀧颯祐くん）、チャド大使（特進部2年 大原真由さん、高岸恵実さん）として出場し、他校の大使達と「国際開発と移民」について熱い議論を交わしました。そして、各国大使と協働で「自国も国際社会も移民の人々も利益のある解決策の決議案」を導き出すことができました。生徒たちはこの経験を通じて、将来に役立つ学びと幅広い社会性を身に付けることができました。

7. 一日体験入学実施

2019年8月20日、21日の2日間にわたり、に高等学校生徒募集の一環として、中学3年生対象

に「学校紹介&体験入学」が行われました。今年度は、国語・世界史・数学・物理・化学・英語・パソコン・簿記の8科目を開講し、計577名の受験生・保護者が参加しました。各講座とも学習することの喜びを引き出すために工夫を凝らし、盛況のうちに終えました。第二部の「入試問題の傾向と対策」「学校見学ツアー」にも多くの方にご参加いただきました。「とてもわかりやすく、すぐに頭に入ってきた。読解の意味をくわしく学ぶことができました」(国語・生徒)「飲み物をテーマにした世界史は今までと違う視点だったので楽しかった」(世界史・生徒)「体験授業を受ける前までは子どもだけでもよいのでは思っていたが、一緒に聞くことにより、親の視点で授業を受け、共通の話題が持てました」(化学・保護者)などの感想が寄せられました。

8. 「笑顔満祭」～浦実祭(文化祭)終了～

2019年9月8日に浦実祭(文化祭)が開催され、台風が近づく中、3,500名を超える方々にいらしていただきました。テーマの如く、たくさんの笑顔がそこかしこに溢れた今年の文化祭でした。

9. 「何を基準に大学を選択するのか」～普通科2年進学講演会実施～

2019年9月12日の5～6限に本校学生ホールにて、普通科2年選抜 α 、選抜、進学コース対象の進学講演会が行われました。「先ドリ!後悔しない志望校選び」という演題で、(株)進研アドの笹原繭子先生からご講演していただき、新入試のポイントや大学を選ぶための判断基準などのお話をしていただきました。

10. ご来場ありがとうございました～塾の先生方対象の説明会実施～

2019年9月18日に「塾の先生方対象の説明会」をベルヴィ武蔵野で開催いたしました。

11. 笑顔溢れる1日～浦実祭(第56回体育祭)開催～

2019年10月4日、上尾運動公園陸上競技場にて浦実祭(第56回体育祭)が開催されました。早朝から雨が降りしきる中でしたが、競技が行われる時間になると晴れ、日中は汗ばむような陽気でした。ゴールを目指し一生懸命に走り、クラスメイトを応援し続ける生徒達。男女とも集団演技では日頃の練習の成果を見せてくれ、見事な演技となりました。

12. 普通科1年生選抜 α ・選抜・進学コース、キャリアガイダンス実施

2019年11月7日、普通科1年生選抜 α ・選抜・進学コース対象に(株)マイナビ教育広報事業本部の田村慎平氏を招いてキャリアガイダンスを実施しました。テーマは「進学の『その先』を考える～文理選択は人生の大きな分岐点～」。将来の職業と大学の学部・学科のつながりを通して「文理選択」をすることの必要性を説いた講演は生徒たちが直面する課題を考えるうえで参考になりました。

13. 「合格」の頂を目指して～普通科3年生入試システムガイダンス実施～

2019年11月19～22日、普通科3年生を対象に入試システムガイダンスを実施しました。4日間で約30校の入試担当の方をお招きして、一般受験で大学合格を目指す生徒たちに学部・学科の内容、一般入試受験方式の解説やセンター試験利用入試での出願方法などについてお話いただきました。「入試までの残りの数日の勉強のやり方が理解できた」「入試のシステムが複雑でよく理解してなかったが、今日の話聞いて自分に合う受験方式を見つけることができた」といった声が聞かれました。

14. 高校生の主張!～校内弁論大会実施～

11月22日に本校の伝統行事である「校内弁論大会」を実施しました。各学年代表の弁士が、普段心に感じていることや自分の経験を通して学んだことなどを思い思いに発表します。今年の主な題目は「介護と私」、「人とのつながり」、「地球の今と未来～What should we do?～」などでした。その中で栄えある第1位に輝いたのは3年C組上村仁美さんの「声を上げる勇気」です。ハンドボール

部の部長として部活をまとめる難しさに悩みながら得た貴重な体験や仲間との友情について述べた、素晴らしい弁論でした。

15. 埼玉県知事賞・犯罪被害者支援室賞受賞

～命の大切さ・被害者支援等に関する感想文・作文表彰式～

11月25日に埼玉会館小ホールで開催された「犯罪被害者支援県民のつどい」において「命の大切さ・被害者支援等に関する感想文・作文」の表彰式が行われました。本校からは二川優菜さん（選抜αコース・2年生）が埼玉犯罪被害者援助センター理事長賞を、酒田ちひろさん（選抜コース・2年生）が埼玉県知事賞を受賞。埼玉県警察、犯罪被害者援助センター、メディアの方々等が多く集まり、他校の小中高生と共に表彰を受けました。埼玉犯罪被害者援助センター理事長賞を受賞した二川さんは、自分自身の生い立ちを通して、多くの人のおかげで今の自分があること、そして救われた命を最期まで大切にすることが使命だということを受賞作である「私の妹」に込めました。また、酒田さんは県知事賞を受賞した「少しでも力になれるように」で、いじめに遭い苦しくて辛い思いをしている子どもたちが一人でも減って欲しいと訴えました。さらに酒田さんの作文は2020年3月に犯罪被害者支援室長賞を受賞しました。

16. ハワイの歴史・文化に触れて～特進部2年 ハワイ歴史文化研究発表会実施～

2年次における最大の目玉行事であるハワイ短期留学は、総合的な学習の時間に位置付けられています。そこで特進部ではその前後に事前学習（1年次）と事後学習（2年次）を設定し、ハワイの歴史文化に対する理解を深める取り組みをしています。その一環として、2019年12月5日に2年生が6班に分かれ、各班での研究テーマを英語で発表するハワイ歴史文化研究発表会を事後学習として行いました。ゲスト審査員としてハワイ州観光局にお勤めの平牧紗美様にもお越しいただき、生徒たちの発表に対してコメントやアドバイスを寄せていただきました。最優秀賞と校長賞の発表のあと、審査委員長からどの班の発表も甲乙をつけがたいほど立派なものであったと講評をいただき、安堵しつつも、どこか誇らしげな表情を湛えていた生徒の様子が印象的でした。次年度は今年以上に、良い発表会にしたいと特進部教員一同、すでにはりきっております。

17. 「スマホ」との付き合い方を学ぶ～1年生スマホ・ケータイ安全教室実施～

2019年12月18日、1年生を対象にNTT docomoから講師の方をお招きして「スマホ・ケータイ安全教室」を実施しました。リアリティのある再現ドラマや、実際にあった事例を交えながらの講義に生徒たちは真剣な様子で聞き入っていました。「何気なく使っているSNSや、仲間内だけと思っていたやりとりが色々なところへ拡散されて、世界中に広がっていく怖さを改めて学んだ。」「軽はずみな行動で人生が変わってしまうのは恐ろしいと思った。」「親や友達と一緒に使い方を考えていきたい。」など様々な感想が寄せられ、講義を通してスマートフォンとの付き合い方を十分に学ぶことができました。

18. 職業を「知る」～商業科1年進路講演会実施～

商業科1年生は2019年12月21日に㈱マイナビ教育広報事業本部の田村慎平氏を講師としてお招きし、進路講演会を実施しました。まず講演の前半で高校生が進路を考えると、知らない職業は進路の選択肢にならない。だから社会には様々な職業があることを知ろうというお話をいただきました。そして後半には実際に自分が今興味のある分野の職業について、その場で調べてみるという活動を行いました。生徒たちは「進路決定には早くからの準備が必要だということがわかった。」「まだまだ自分の知らない職業があると思うのでもっと調べてみたい。」と口々に感想を述べていました。今回の講演を受けて、3学期には職業に関する探究活動を継続して実施していきます。

19. さいたま市南区選挙セミナーに参加～生徒会活動報告～2020年

2020年1月25日、南区役所で開催された選挙セミナーに、本校生徒会役員10名が参加しました。講師は慶應義塾大学SFC研究所の上席所員でいらっしゃる西野偉彦先生で、『18歳選挙権』時代の選挙啓発とは～体験！主権者教育！』と題する講演は、ワークシートの作業などもあって高校生にもわかりやすい内容でした。参加した生徒は、「どうして選挙権年齢が18歳に引き下げられたかがわかった」「主権者教育は小学校から行う必要があることを実感した」と話す一方、被選挙権年齢の引き下げの可能性について西野先生に質問をするなど、とても有意義な時間となりました。1年後、2年後に選挙権を有することになる生徒たちは、選挙は身近なものであると実感したようです。

20. 2019年度 校内技能競技大会表彰式

2020年2月27日に校内技能競技大会表彰式を行いました。昨年末から今月にかけて、本校の伝統行事である「校内技能競技大会」が開催され、商業科全学年各クラスから選出された代表生徒たちが授業で培った技能を競い合いました。そして、今日、情報処理・簿記・電卓の3部門の優秀者に賞状と記念の盾が贈られました。今回表彰を受けた生徒たちは更なる高みを、残念ながら今回は受賞できなかった生徒たちは、技能の向上を目指して努力を重ねて欲しいと思います。

21. 大規模修繕

今年度の大規模工事は、実施しておりません。

2-3 定期内部監査の実施について

監査内容は

- ① 部門別配賦予算の執行状況ならびに収入支出関連処理の妥当性を伝票、補助元帳等に基づいて監査する。
- ② 備品ならびに物品等の備品ならびに物品等の購入、保管、管理状況を関係台帳に基づいて監査する。
- ③ 公的研究費の運営、管理状況を関係帳票等に基づいて監査する。
- ④ 前回監査指摘事項の改善状況について監査する。
- ⑤ 日常の事務処理が「ムリ」「ムダ」「ムラ」なく円滑に機能しているか、問題はないか等を実態面から監査する。

の5項目とし、大学・短期大学部、中学校・高等学校、および外郭団体を対象としました。実施日は10,11月の2日間とし、学園本部の職員が各所に赴き、予算責任者および担当者への質疑・照会等を行うことにより、監査を実施しました。また、両日共に監事が立ち会い、監査が適正に行われているかを確認しました。

監査の結果、各部署とも概ね規則・ルール等に沿って適正に運営していることが確認できました。

監査により明らかになった課題については、該当部署等に通知し、2月までに改善計画を求めました。また、この監査結果については会計監査人にも報告、意見交換を行いました。

3 財務の概要

学校法人九里学園の2019年度決算は2020年6月20日開催の理事会で承認され、その後、同日開催の評議員会で報告が行われました。

3-1 決算の概要

2015(平成27)年度から学校法人会計基準が大幅に変更になり、本年度で5年目を終えます。事業活動収支計算書の基本金組入前当年度収支差額(旧基準の帰属収支差額)は△400,871千円で、事業活動収支差額比率は△11.6%となっています。また、貸借対照表の資産の部合計は26,931百万円、純資産は24,864百万円で、純資産構成比率は92.9%と高い水準で維持されています。

3-2 資金収支計算書の概要

資金収支計算書は当該会計年度の諸活動に対応するすべての収入及び支出の内容並びに当該会計年度における支払資金の収入及び支出のてん末を明らかにしたものです。

資金収支計算書

(収入の部)		(千円)
科	目	金額
学生生徒等納付金収入		2,032,388
手数料収入		139,808
寄付金収入		36,084
補助金収入		983,807
資産売却収入		8,579
付随事業・収益事業収入		49,341
受取利息・配当金収入		49,618
雑収入		117,378
借入金等収入		0
前受金収入		815,354
その他の収入		443,857
資金収入調整勘定		△ 867,288
前年度繰越支払資金		2,087,326
収入の部合計		5,896,252
(支出の部)		
科	目	金額
人件費支出		2,306,596
教育研究経費支出		677,362
管理経費支出		266,917
借入金等利息支出		0
借入金等返済支出		0
施設関係支出		42,197
設備関係支出		18,335
資産運用支出		304,450
その他の支出		323,495
資金支出調整勘定		△ 193,876
翌年度繰越支払資金		2,150,776
支出の部合計		5,896,252

学生生徒等納付金収入は授業料や入学金、施設設備費などです。

手数料収入は入学検定料が中心です。

補助金収入は、埼玉県からの高等学校運営費補助金、父母負担軽減事業補助金、国からの私立大学等経常費補助金が主なものです。

人件費支出は教職員の人件費や退職金などです。

教育研究経費支出は教育研究に直接要する諸経費です。管理経費支出は教育研究経費以外の諸経費です。両経費とも減価償却額は含まれません。

※四捨五入で表示

3-3 事業活動収支計算書の概要

当該会計年度の事業活動毎の収支の内容と均衡状態を明確にし、経営状況を表すものです。2015(平成 27)年度から、学校法人の活動を①教育活動 ②教育活動以外の経常的な活動 ③それ以外の活動(特別収支)に分けて、それぞれの収支差額を計算しています。その合計を「基本金組入前当年度収支差額」として明記し、そこから基本金組入額を控除したものが当年度収支差額となります。収支の均衡の状態は、「当年度収支差額」で判断します。一般的に学校法人会計では収支が均衡していることを理想としています。

事業活動収支計算書

		(千円)	
科	目	金	額
教育活動	学生生徒等納付金	2,032,388	
	手数料	139,808	
	寄付金	55,479	
	経常費等補助金	983,446	
	付随事業収入	45,952	
	雑収入	121,516	
	教育活動収入計	3,378,589	
	人件費	2,315,909	
	教育研究経費	999,946	
	管理経費	293,994	
	徴収不能額等	16,500	
	教育活動支出計	3,626,349	
教育活動収支差額	△ 247,760		
教育活動外	受取利息・配当金	49,618	
	その他の教育活動外収入	0	
	教育活動外収入計	49,618	
	借入金等利息	0	
	その他の教育活動外支出	5,523	
教育活動外支出計	5,523		
教育活動外収支差額	44,095		
経常収支差額	△ 203,665		
特別活動	資産売却収入	0	
	資産売却差額	579	
	その他の特別収入	22,124	
	特別収入計	22,703	
	資産処分差額	219,675	
	その他の特別支出	234	
特別支出計	219,909		
特別収支差額	△ 197,206		
基本金組入前当年度収支差額	△ 400,871		
基本金組入額合計	△ 3,885		
当年度収支差額	△ 404,756		
前年度繰越収支差額	393,870		
基本金取崩額	824,116		
翌年度繰越収支差額	813,231		

学生生徒等納付金、手数料は資金収支計算書と同じです。

寄付金の資金収支計算書との違いは、施設設備以外の現物寄付が含まれます。

経常費等補助金は施設設備の補助金以外の補助金です。

人件費には資金収支の人件費支出には計上されない退職給与引当金繰入額が含まれています。
教育研究経費と管理経費には減価償却費が含まれます。

受取利息・配当金は資金収支の受取利息・配当金収入と同じです。

その他の特別収入は施設設備の現物寄付金や施設設備寄付金、施設設備補助金などです。

(参考)

事業活動収入計	3,450,910
事業活動支出計	3,851,781

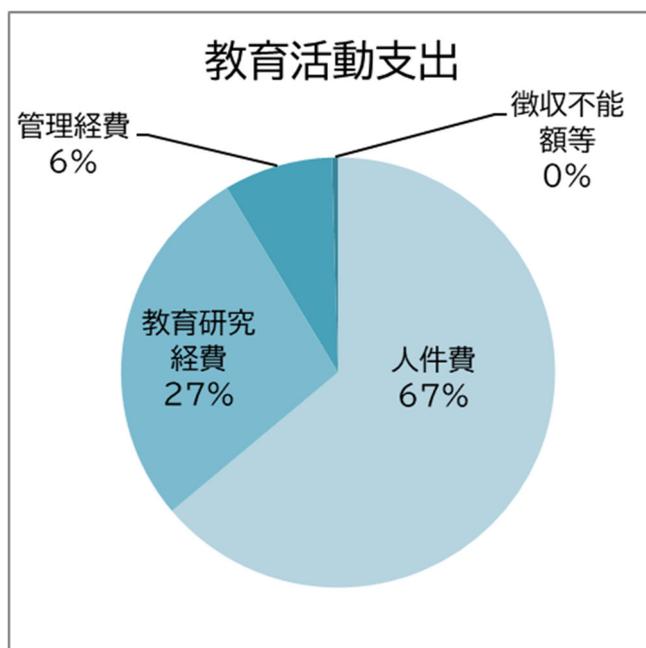
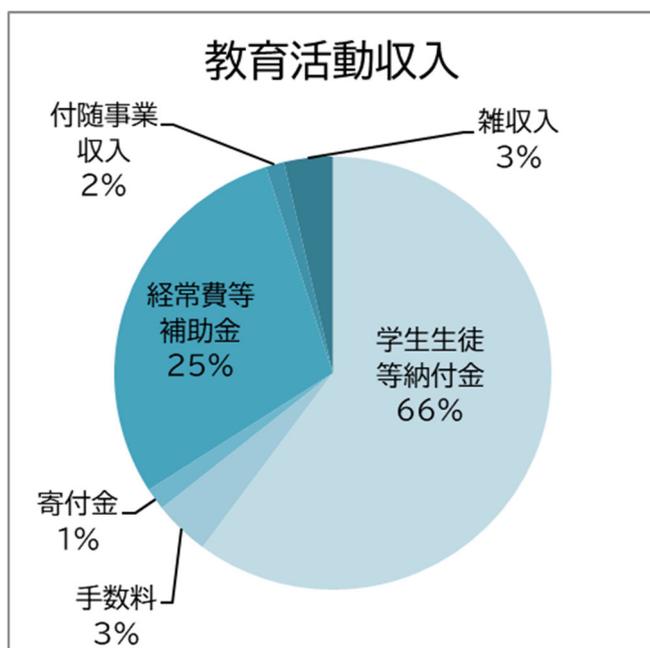
※四捨五入で表示

<基本金とは>

学校法人が諸活動の計画に基づき、教育研究の維持・充実に必要な資産を継続的に確保するための金額であり、以下の通り、第1号基本金から第4号基本金まであります。

- ・第1号基本金…設立や規模の拡大もしくは教育の充実向上のために取得した固定資産の額
- ・第2号基本金…将来取得する固定資産に充てる金銭その他の資産の額
- ・第3号基本金…基金として継続的に保持し、運用する金銭その他の資産の額
※基金の元本から生じる果実は、教育研究活動に使用されます。
- ・第4号基本金…恒常的に保持すべき資金
※円滑に運営に必要な運転資金を保持するため、一定額の資金を基本金とします。

事業活動計算書における教育活動収入及び支出の構造



3-4 貸借対照表の概要

当該年度末における資産、負債、純資産（基本金、繰越収支差額）の状態、つまり財政状態を表すものです。

貸借対照表

(資産の部)		(千円)	
科目	目	金	額
固定資産	産	24,628,530	
有形固定資産		13,304,596	
特定資産		10,602,659	
その他の固定資産		721,275	
流動資産	産	2,302,203	
資産の部合計	計	26,930,733	
(負債の部)			
科目	目	金	額
固定負債	債	723,681	
流動負債	債	1,343,354	
負債の部合計	計	2,067,035	
(純資産の部)			
科目	目	金	額
基本金	金	24,050,468	
繰越収支差額	額	813,231	
純資産の部合計	計	24,863,698	
負債及び純資産の部合計	計	26,930,733	

※四捨五入で表示

有形固定資産は土地、建物、図書などです。

特定資産は退職給与引当特定資産、減価償却引当特定資産などです。

現金預金や未収入金などです。

退職給与引当金などです。

未払金や学費の前受金などです。

基本金は

- ①取得した固定資産の価額
- ②計画的に将来取得する①の固定資産に充てる金額
- ③基金として継続して保持し、かつ、運用する金銭などの額
- ④恒常的に保持すべき資金の額です。

3-5 主な財務比率の経年比較

<新会計基準>

	比 率	算 式	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
事業活動収支計算書関係比率	人件費比率	$\frac{\text{人 件 費}}{\text{経常収入}}$	65.4%	71.6%	72.7%	74.0%	68.5%
	人件費依存率	$\frac{\text{人 件 費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	101.2%	113.9%	119.8%	125.1%	114.0%
	教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	26.3%	26.2%	25.7%	26.5%	29.6%
	管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	6.3%	8.9%	9.6%	10.3%	8.7%
	事業活動収支差額比率	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	2.0%	△4.1%	△6.2%	△8.3%	△11.6%
	学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入}}$	64.7%	62.9%	60.7%	59.2%	60.2%
貸借対照表関係比率	流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	212.1%	196.2%	181.8%	166.6%	171.4%
	総負債比率	$\frac{\text{総 負 債}}{\text{総 資 産}}$	7.3%	7.4%	7.1%	7.5%	7.7%
	純資産構成比率	$\frac{\text{純資産}}{\text{純資産+総負債}}$	92.7%	93.1%	93.4%	93.1%	92.9%
	基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	積立率	$\frac{\text{運用資産 (3)}}{\text{要積立金 (4)}}$	119.5%	123.6%	119.3%	119.3%	114.4%

(3) 運用資産 = 現金預金 + 特定資産 + 有価証券

(4) 要積立額 = 減価償却累計額 + 退職給与引当金 + 2号基本金 + 3号基本金

3-6 各財務比率の解説

人件費比率	<p>人件費の経常収入（帰属収入）に対する割合を示す重要な比率である。人件費は経常支出（消費支出）のなかで最大の部分を占めているため、この比率が特に高くなると、経常支出（消費支出）全体を大きく膨張させ経常収支（消費収支）の悪化を招きやすい。また、人件費の性格上、一旦上昇した人件費比率の低下を図ることは容易ではない。</p>
人件費依存率	<p>人件費の学生生徒等納付金に対する割合を示す関係比率である。一般的に、人件費は学生生徒等納付金の範囲内に収まっていること、すなわち、この比率が100%を超えないことが経営上では好ましい。ただし、学校法人種別や系統並びに規模等によって、必ずしもこの範囲に収まらない場合もあるが、低い値であることが望ましい。</p>
教育研究経費比率	<p>教育研究経費の経常収入（帰属収入）に対する割合である。この比率は経常収支（消費収支）の均衡を失しない限りにおいて高くなることは望ましい。しかし、この比率が著しく高い場合は、経常収支（消費収支）の均衡を崩す要因の一つともなる。</p>
管理経費比率	<p>管理経費の経常収入（帰属収入）に対する割合である。学校法人の運営のためには、ある程度の管理経費の支出はやむを得ないとしても、比率としては低い方が望ましい。</p>
事業活動収支差額比率 (帰属収支差額比率)	<p>事業活動収入に対する基本金組入前の当期収支差額が占める割合である。（帰属収入から消費支出を差し引いた帰属収支差額の帰属収入に対する割合である。）この比率がプラスで大きくなるほど自己資金は充実されていることとなり、経営に余裕があるものとみなすことができる。</p>
学生生徒等納付金比率	<p>学生生徒等納付金の経常収入（帰属収入）に占める割合である。学生生徒等納付金は、学生生徒等の増加または減少並びに納付金の金額水準の高低によって影響をうけるが、学校法人の経常収入（帰属収入）のなかで最大の比重を占めており、補助金や寄付金と比べて第三者の意向に左右されることの少ない重要な自己財源である。</p>
流動比率	<p>流動負債に対する流動資産の割合である。一年以内に償還又は支払わなければならない流動負債に対して、現金預金又は一年以内に現金化が可能な流動資産がどの程度用意されているかという、学校法人の資金流動性すなわち短期的な支払い能力を判断する重要な指標の一つである。</p>
総負債比率	<p>固定負債と流動負債を合計した負債総額の総資産に対する割合である。この比率は、総資産に対する他人資本の比重を評価する極めて重要な関係比率である。この比率は低いほどよく、50%を超えると負債総額が純資産（自己資金（基本金プラス消費収支差額））を上回ることになり、さらに100%を超えると負債総額が資産総額を上回る状態、いわゆる債務超過となる。</p>
純資産構成比率 (自己資金構成比率)	<p>純資産の「純資産及び総負債の合計額」（自己資金の総資金）に占める構成割合である。この比率は、学校法人の資金の調達源泉を分析する上で、最も概括的で重要な指標である。この比率は、高いほど財政的に安定しており、50%を割ると他人資金が自己資金を上回っていることを示している。</p>

基本金比率	基本金組入対象資産額である要組入額に対する組入済基本金の割合である。この比率の上限は 100%であり、100%に近いほど未組入額が少ないことを示している。未組入額があるということは借入金又は未払金をもって基本金対象資産を取得していることを意味する。したがって、この比率は 100%に近づくほうが望ましい。
積立率	学校法人の経営を持続的かつ安定的に継続するために必要となる運用資産の保有状況を表す。一般的には比率は高い方が望ましい。

参考文献 : 「今日の私学財政」(日本私立学校振興・共済事業団)

3-7 学校法人会計の特徴と企業会計との違い

会計とは、経営活動の状況を貨幣単位で表したものであり、営利法人であるか非営利法人であるかを問わず、すべての経営体になくしてはならないものです。すべての経営体はヒト、モノ、カネの混合した運営体であり、これらの動きを貨幣単位で統一的に表すことによって、経営体の実態を把握することができます。

企業会計では、このような会計によって主として収益と費用を正しくとらえて、事業年度の正しい損益を計算し、併せて企業の財政状態、すなわち資産、負債及び純資産の状態を知ることによって、より収益力を高め、財政的安全性を図ることを目的としています。

学校法人は、教育研究活動を目的とし、その経費の多くは学生生徒等の納付金、国民の税金を原資とした補助金、善意の人々の浄財である寄付金によって賄われ、しかも、税制上の優遇措置を受けているきわめて公共性の高い法人であり、収益の獲得を目的とすることはできません。したがって、学校法人の会計には、損益の計算という概念はありません。公共性の高い法人とは、社会の公器です。社会の公器であるなら、一般の企業に比べてより一層の持続性が望まれます。事業活動収入に対し事業活動支出が超えないことが経営の健全化を表します。

以上のことから、学校法人会計の第一の目的は、収支の均衡の状況と財政の状態を正しくとらえ、法人の持続的発展に役立てようとすることにあります。

出典：「学校法人会計のすべて」(齋藤力夫編著、税務経理協会)